

7日目 5月4日

会 場： 県立浜山球場

第1試合		～準決勝～ (7回コールド)																
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E
島根中央	0	0	0	0	0	0	0									0	2	4
大 社	0	5	0	0	0	2	X									7	5	1
(投手-捕手)																		
・ (中)	田平→向井 - 郷原																	
・ (大)	馬庭→安松 - 石原																	
(長 打)	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)					
・ (中)	李																	
・ (大)	安松																	
(審判) [球審] 安達健		[一塁] 森島				[二塁] 波多				[三塁] 清水洋								
(チーム成績)																		
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守備	失	暴	ボ	逸	打妨
(中)	27	2	0	1	0	0	8	3	1	1		0		4	0	1	0	0
(大)	28	5	6	1	0	0	4	3	2	2		1		1	0	0	0	0

「大社、バント攻撃光る！」

準決勝1試合目は、秋の王者浜田を倒し勢いに乗る島根中央と2019年以來の春制覇を狙う大社の対戦となった。

試合が大きく動いたのは2回裏、大社は内野の失策2つと死球で1死満塁と好機を得る。9番馬庭が初球にスクイズを転がすと、投手が本塁に転送するも野選となり先制点を挙げる。1番小村も初球に2者連続となるスクイズを決めると、相手一塁手の送球が高く浮いたことで二塁手がベースに入るのが遅れて打者もセーフとなる。続く2番石飛が落ちて押し出しとなる四球を選ぶと島根中央はたまたまエース向井をマウンドへ送る。3番藤江が継投直後の初球を叩くと、二塁手が飛び込むも弾き、弾いた球を左翼手が捕球するも2者が生還し、この回に一挙5得点を挙げた。

その後は、両校得点が動かずに迎えた6回裏、6番坂根が安打で出塁すると相手投手のボークで2塁へ進む。更に7番藤原が空振り三振し捕手が1塁へ転送する間に、3塁を落とす好走塁を見せる。すると8番井上がレフトへの適時打を放つと、途中から継投した9番安松がレフト線へ2塁打を放ち2死2・3塁とし、相手投手の2塁牽制が悪送球となる間に1点を追加し7点差とした。

島根中央は3～5に毎回得点圏に走者を進めたが後1本が出なかった。6回以降は継投した大社のエース安松に6アウト中4アウトが三振と圧倒され攻略の糸口を掴むことができなかった。決勝戦へ進出した大社は2019年以來の春制覇に挑む。

